

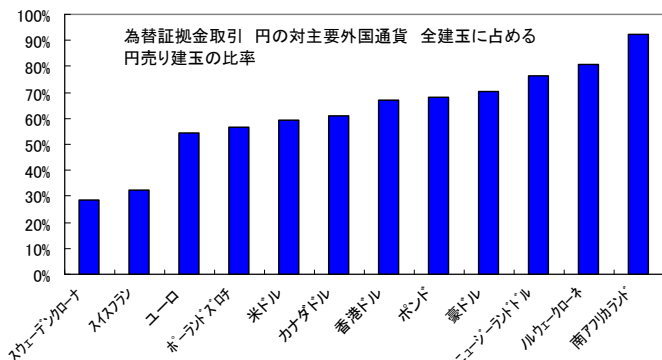
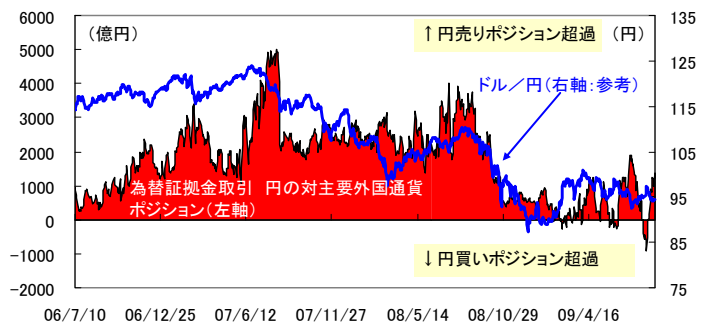
## 日本の個人の為替証拠金取引とヘッジファンドのポジション動向

- ✓ 相場の落ち着きとともに、日本の個人投資家の円売り取引には再開の兆候が見え始めた。
- ✓ 日本の個人投資家はポジション構築に際して、再び金利差に着目しはじめた可能性。
- ✓ ヘッジファンドのパフォーマンスは足元の株価や原油価格の上昇に劣後。相場の下支え要因と見る向きも。

為替証拠金取引を通じた日本の個人投資家は、海外でミセスワタナベと称され、円相場の変動に多大な影響力を持つことから、そのポジション動向が注目を集めています。彼らの円売りポジションは2007年および2008年の夏場に約5千億円近辺でピークアウトし、そのポジション解消が急激な円高の一要因となっていました。足元は、相場の落ち着きもあり、彼らのポジションは、小幅な円売りが優勢になってきました（図表①参照）。為替証拠金取引における円の対主要外国通貨、全建玉に占める円売り建玉の比率（8/24時点）を見ると、絶対金利水準が高い通貨や、豪州やノルウェークローネ、英ポンドなどのように今年後半から来年にかけて利上げ観測が浮上している国の通貨に対しての円売り比率が高い模様です（図表②参照）。

【図表①】

【図表②】



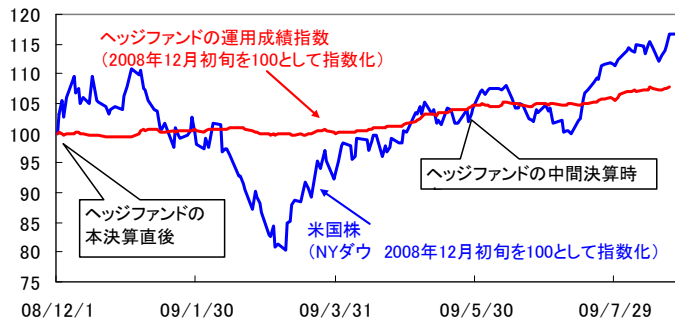
為替証拠金取引 円の対主要通貨ポジション=円の対米ドル、ユーロ、ポンド、カナダドル、豪ドル、ニュージーランドドルポジションの売り/買い建玉合計から算出  
出所:ブルームバーグ

2009年8月24日時点 出所:ブルームバーグ

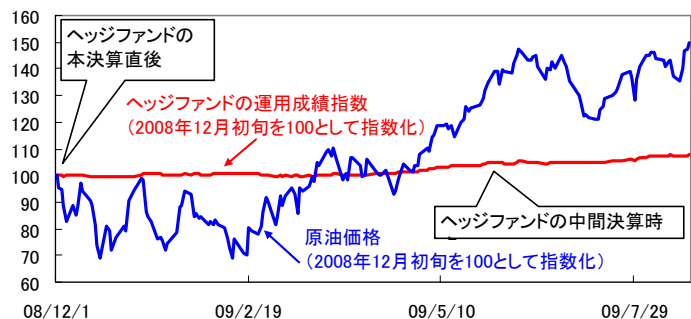
ヘッジファンドは、金融危機に際してのリスク回避行動から運用資産の現金化を急速に行いました。これが株や原油価格急落の最大の要因になっていました。しかし、足元、リスク回避の緩和や景気回復観測から、株や原油などの価格が上昇しはじめました。これに対してヘッジファンドの前期本決算以降のパフォーマンス指数を見る限り、株価や原油価格に劣後しています。金融危機局面で高め過ぎた彼らの現金比率がパフォーマンス劣後の要因になっているとの観測があります。高い収益を求められるヘッジファンドは現在、株や原油を「買っていないリスク」にさらされているため、彼らの押し目買い（一時的に下落した場面での買い）が予想され、相場は下方硬直性を持つと見る向きがあるようです（図表③④参照）。

【図表③】

【図表④】



出所:ブルームバーグ



出所:ブルームバーグ

## ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号  
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

